

INTERVIEW

NPO法人卒後臨床研修評価機構 専務理事
岩崎 榮先生



卒前・卒後～専門医研修まで、 一貫した教育の必要性を思う。

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

全身を診ることの重要性を知る

山田隆司(聞き手) 今日岩崎 榮先生をお訪ねしました。協会では「地域医療とは、住民、行政、医療人が一体となって、担当する地域の限られた資源を最大限に活用し、保健医療福祉の包括的なサービスを、継続的に計画、実践、評価するプロセス」と地域医療のことを定義しているのですが、これはそもそも岩崎先生が開催された長崎での離島ワークショップで生まれたものだと以前の対談の時にも教えていただきました。そんな訳で協会とも深いご縁のあるお立場から再びいろいろなお話をお伺いしたいと思っています。

現在新しい新専門医制度のことが議論されていますが、先生は以前から初期研修について評価する卒後臨床研修評価機構の理事も務めていらっしゃると思いますので、今日はその辺りのお話を

中心に伺えたらと思います。

岩崎 榮 私は昭和26年に長崎大学に入学しました。社会医学に興味を持っていたので、当時の衛生・公衆衛生学の教官たちと一緒に社会医学研究会(社医研)を開いていました。学生時代は社会医学に燃えていたのですが、医師になった途端に、やはり臨床をしておかないと社会医学の応用はきかないと思うようになりました。当時はインターン制度でありましたので1年間のインターンで全ての診療科を回りましたが、非常に役に立ちました。その後大学の内科の医局に入り1年間いましたが、留学したいと考えるようになりました。「佐世保へ行くと外国人が多くいるので英語の勉強になる」と言われ、1年間佐世保の病院で勤務した後、米国エヴァツデュリ

スト医科大学の心肺センターにフェローとして心電図の勉強をしたいと考えて留学しました。

心電図を診れば心疾患診断の糸口になると思っていましたが、アシスタント・プロフェッサーから、脈の診方、聴診器の当て方、触診をはじめ、全身を診ることの重要性を指導されました。第1日目から大きなショックを受け、今日まで教えとして受けとめています。「とにかく診断学の基礎を1、2週間でやる。そうしなければ、あなたに患者さんを診せることはできない」と言われましたので、短期間でしたがいろいろな症例について集中して勉強しました。期間ではなく、いかに症例を多くこなすかだということを実感しましたね。そういう訓練を受けて、1年間で帰ってきました。

山田 大学に戻られたのですか。

岩崎 内科に復帰しましたが、当時の大学では初年兵はあちこちに派遣されます。籍は大学ですが、国立病院の結核療養所に行きました。4年目に大学に戻り助手となり、昭和41年講師になりました。

山田 内科学の講座ですか。

岩崎 そうです。当時は臓器別ではない総合的な内科でしたから、外来でも、入院でも何でも受け持ち、血液疾患も一緒に診るといようなことをしていました。途中から大学紛争で研究も臨床もストップした状況が続き、その後大学を辞めて国立病院に出たのです。

山田 それで国立大村病院に行かれたのですか。

岩崎 はい。赴任後間もなく国立長崎中央病院と改称した、現在の独立行政法人国立病院機構 長崎医療センターです。

離島医療を守るために

岩崎 長崎県は当時無医島もあり、異常なほどの医師不足でした。大学には各離島からの医師要請が多く、そこで国立病院でまずは医師を安定的に供給できる病院、そして臨床研修病院としての充実を目指しました。ちょうど自治医科大学の1期生が卒業するという時だったので、臨床研修病院に指定認可されることと自治医大卒業生を迎えることを同時に成功させるために、県や長崎大学を巻き込んで3年くらいかかってその形をつくりました。最初は自治医大よりも1年前に県の医学修学資金貸与制度により北里大学医学部を卒業した医師の研修が始まりました。

山田 先生のご尽力によって、国立長崎中央病院が自治医大卒業生にとっても素晴らしい臨床研修の場所になったということですね。

岩崎 自治医大の卒業生は国立長崎中央病院の目標

であった「離島医療」に大きく貢献してくれました。

山田 国立長崎中央病院は離島の医療と実際にどのようにリンクしていたのですか。例えば医師派遣をしていたとか？

岩崎 当時は医師を派遣するところまではいかなかった。そこで離島の病院での研修を義務付けました。研修医の採用条件に「離島の病院での研修」を入れたのです。

山田 国立長崎中央病院に来ると、必ず何週間かは離島に行くということですね。

岩崎 そうです。ところがその当時離島の病院には指導医がいなかった。それで指導医も一緒に行ってもらいました。

山田 それは画期的ですね。

岩崎 そういうことで国立長崎中央病院の離島医療